

NPO法人 龍ヶ崎ゲヴァントハウス 特別講演会とコンサート

名門楽団員が語る“音楽と指揮者とオーケストラ”

毎年3回程開催しております当会の「講演会&CDコンサート」は、日本を代表する一流の講師と、当会自慢のオリジナルのオーディオ装置が話題となり、茨城県内に留まらず、県外各地からも熱心な音楽・オーディオファンが駆けつけ、盛況を極めております。

今回はアメリカの名門オーケストラ、クリーヴランド管弦楽団在籍のヴァイオリニスト、白上冴さんをお迎えし、「名門楽団員が語る、音楽と指揮者とオーケストラ」と題して、講演会を行います。白上さんは、5歳よりヴァイオリンを始め、サンフランシスコ音楽院及びクリーヴランド音楽院大学院を卒業後、ヒューストン交響楽団に入団、1999年に小澤征爾率いるボストン交響楽団に移籍。2001年にクリーヴランド管弦楽団に移り現在に至っています。その間、1990年、91年、94年には札幌のパシフィック・ミュージック・フェスティバル・オーケストラに参加、コンサート・ミストレスとして巨匠レナード・バーンスタイン、クリストフ・エッシェンバッハの元で演奏した経験を持っています。

演奏者側から見た数々の名指揮者を巡るエピソード、オーケストラとは、そして音楽とは。世界を飛び回るヴァイオリニスト、白上さんだからこそ語れる興味深いお話と、思い出の演奏を聴かせていただきます。

日時：2019年6月15日(土)午後2時00分～午後4時30分(休憩15分)

場所：龍ヶ崎ショッピングセンター「リブラ龍ヶ崎」2階旧映画館

講師：白上 冴氏(ヴァイオリニスト。アメリカ・クリーヴランド管弦楽団楽団員)

テーマ：名門楽団員が語る“音楽と指揮者とオーケストラ”

《白上 冴氏・略歴》

5歳よりヴァイオリンを学び始め、15歳で渡米、サンフランシスコ音楽院卒業後クリーヴランド音楽院大学院に進み、Dワイラースタイン氏の助手を務める。ASTA、カーメル、フレッシュオフの室内楽コンクール等で受賞。タンゲルウッド及びアスピンの音楽祭に参加。また、巨匠レナード・バーンスタインが始めた札幌のパシフィック・ミュージック・フェスティバルには、1990、1991、1994年にコンサート・ミストレスとして参加。クリーヴランド音楽院卒業後、ヒューストン交響楽団に入団。1999年ボストン交響楽団に移籍。2001年にクリーヴランド管弦楽団に移り現在に至る。また、クリーヴランド・チェンバー・コレクティブのメンバーとしても活躍。日本では福祉活動に熱心に取り組んでおり、帰国時には福祉団体が主催するチャリティコンサートに多く出演している。当「龍ヶ崎ゲヴァントハウス」後援でのリサイタル・ライブCDが出ている。

曲 目

バッハ：ヴァイオリン協奏曲第1番イ短調～第1楽章

白上 冴 (Vn) (10歳の時の演奏)

ゴンドラの歌/待ちぼうけ

ザ・ガシガ・トリオ (The GaShiGa Trio) (2002年録音)

(白上 冴 (Vn)/ジュンコ・ウエノ・ギャレット (P)/デイヴィット・ギャレット (Vc))

メシアン：トゥーランガリラ交響曲～第10楽章

小澤征爾指揮ボストン交響楽団 (2000.5.7 ケルン・フィルハーモニー)

ピエール＝ローラン・エマール (P)/原田 節 (オンドマルトノ))

マーラー：交響曲第2番イ短調「復活」～終楽章から (1991.8. 札幌芸術の森野外ステージ)

クリストフ・エッシェンバッハ指揮パシフィック・ミュージック・フェスティバル・オーケストラ

佐藤しのぶ (Sop)/クリスタ・ルートヴィヒ (MSop)/PMF合唱団)

————— (休憩15分) —————

バッハ：無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第2番イ短調～シャコンヌ

白上 冴 (Vn) (2013.6.18 八ヶ岳高原音楽堂)

モーツァルト：ピアノ協奏曲第23番イ長調～第1楽章

内田光子 (Pと指揮) クリーヴランド管弦楽団 (2010年録音 グラミー賞受賞盤)

ブルックナー：交響曲第4番変ホ長調「ロマンティック」～第4楽章から

フランツ・ウェルザー・メスト指揮クリーヴランド管弦楽団 (2012.8 聖フローリアン教会)